

令和7年度 綾瀬市立土棚小学校 学校関係者評価報告書

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>	
<p>学校教育目標</p>	<p>よく考える子になろう ねばりづよい子になろう じょうぶな子になろう 思いやりのある子になろう</p>	
<p>学校経営方針 (グラウンドデザイン)</p>		
<p>今年度の重点目標</p>	<p>自分の考えを持ち、前向きに取り組む子</p>	
<p>取組分野</p>	<p>評価の観点</p>	<p>学校の自己評価と改善策</p>
<p>1 学習指導</p>	<p>学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>土棚小学校では、「学校として育成を目指す資質・能力」として目指す児童像を【丁寧に取り組む力】、【とことん考える力】、【一歩踏み出す力】と設定しています。アンケートでは、意欲を持って学習に取り組んでいると回答した児童が、昨年度と比較すると1割以上増え、全体としては約9割の児童が意欲的に取り組んでいます。校内研究を中心とした授業改善では、今年度2年間の指定研究の本発表を行いました。教職員の学力向上に努める意識も児童と比例して「そう思う」と回答した割合が1割増えています。教科の特性としての既習事項を使って新たな課題に向かう流れを踏まえ、より一層基礎・基本の定着を図るとともに児童の学習意欲を高める工夫に力を入れていきます。また、学力の支えとなる豊かな体験、経験が学校生活の中でできるよう年間計画等を考えていきます。</p>
<p>2 教育課程</p>	<p>児童は、学校行事に積極的に参加している。</p>	<p>アンケートから児童が学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。児童が集団生活の中で自らめあてをもって取り組むことを大切に、積極的に取り組むことができなかつたと思っている児童も、達成感が味わえ生き生きと活躍できるように、今後も学校行事への取り組み方を工夫していきます。また、それぞれの行事を通して身に付いたことは何かを明確にするとともに、児童自身がそれらを生活やこれからの人生に生かしていけるように努めていきます。</p>
<p>3 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>多くの児童が、学校生活の中のいろいろな場面で友達と協力し、相手の気持ちを考えていると回答しています。道徳教育、福祉体験、ショート学活等を中心とした全教育活動において、今後も思いやりのある行動を認めたり褒めたりしながら、全ての児童のよりよい変容を促していきます。相互の温かな人間関係を育み、自分の周囲にある環境や物に対しても丁寧に接していく気持ちを育てていく心の教育に一層取り組んでいきます。</p>
<p>4 児童・生徒指導</p>	<p>児童は、満足して学校の生活を送っている。</p>	<p>児童の8割以上が「学校が楽しい」と回答し、学級や学校で楽しく生活していると考えられます。その一方で、学校生活を楽しくないと感じている児童が1割以上います。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係に職員全体で注視するとともに、それぞれの児童の思いを受け止めて、見守り、一人ひとりの個性を大切に、お互いを認め合える関係づくりをしていきます。</p>

5 児童・生徒指導	<p>学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。</p>	<p>いじめの早期発見を目的として、毎月行うスクールアンケートのほか、いじめ防止対策委員会、児童指導グループの取組等、学校が行っている指導や取組があります。スクールアンケートでは、嫌な思いをした、嫌なことをされている人を目撃したなどの記入があった場合や、学校が楽しくないと感じている児童がいた場合などは、担任が聞き取りをして、早期対応に努めています。アンケートから、教職員のいじめの早期発見・再発防止への取組の意識が高い反面、保護者の方への周知が不十分であることがわかります。学校だより等を中心に児童や保護者が安心して話ができる環境づくりを行っていることや、不安や悩みに応じるスクールカウンセラーの存在、常に教育相談に応じていること等を重ねて周知していきます。全教育活動を通して「思いやりの心」を育むとともに、いじめの未然防止に努め、一人ひとりが大切にされる学校・学級を目指していきます。</p>
6 保健管理	<p>学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>ふれあい活動は児童の多くが楽しみにしている活動です。どの学年でも楽しく遊べるよう、互いに思いやりの気持ちをもちながら、様々な遊びを通して活発に交流するほほえましい姿が見られます。グループでの活動をすることで、学級以外での所属感を高め、自己肯定感を高めていくことにもつながります。今後もこの活動だけでなく、日々の児童の健康状態の把握を基本とし、体力の向上を目指すとともに、スクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の健康を目指し、心と体のバランスを整えています。</p>
7 安全管理、教育環境整備	<p>学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。</p>	<p>教職員が意識を高くもって、児童の安全のための指導や施設等の点検・整備に取り組んでいます。児童を取り巻く社会環境の変化や近年の自然災害の甚大化を踏まえ、大地震を想定した震災に対する備えや不審者対応等、学校が意識を高く持って丁寧に取り組むべきと考えます。現状の「火災や地震を想定した避難訓練」「児童に予告せずに行う避難訓練X day」「不審者侵入時の避難訓練」「緊急一斉下校訓練」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理意識を高めていきます。また、ボランティアや保護者の方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について取り組んでいます。</p>
8 支援教育	<p>学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。</p>	<p>全ての教職員が一人ひとりの実態把握に努め、個々のニーズに応じた支援の工夫を行っています。今後も、児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に努めていきます。また、担任が一人に対応するのではなく、児童指導総括教諭を中心に関係者とケース会議を開いたり、いじめ防止対策委員会において事案に応じた適切な対応を検討したりするなど、組織で対応する事を基本とし、他機関とも連携しながらより効果的な支援を検討し、取り組んでいます。</p>
9 組織運営	<p>校長を中心とした運営組織になっている。</p>	<p>学校運営について総括教諭を中心として各グループで企画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践されています。今後もそれぞれの所掌事項において新たな課題を見出し、改善に向けて計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるよう取り組んでいます。また全職員が共通理解のもと教育活動を行うことができるよう、職員各々が担当している行事や取組を学校教育目標及び重点目標と照らし合わせ、各グループでよく話し合いを進めています。引き続き組織が有効に機能することを目指し、グループ間の連携を深めて学校運営上の課題解決に向け、全職員が一丸となって取り組んでいます。</p>
10 教職員の研修	<p>学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。</p>	<p>全ての教職員が、丁寧に取り組み、とことん考え、一歩踏み出す力の育成に努めています。教職員として、目まぐるしく変化する『社会から求められる力』変わらず求められる『基礎的・基本的な力』を身に付けられるよう、校内研究・研修を通して指導力向上を目指し、取り組み続けていきます。また、あらゆる教科学習において今までの研究を更に深化させ、今後も質の高い授業改善に取り組んでいます。</p>

11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	アンケートでは、約7割が肯定的な評価になっていますが、そうでない評価もあります。今後もより一層児童の実態や課題の把握に努め、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導にあたっていきます。また、学校・家庭・地域の連携についても改善の視点を持ち、児童のよりよい成長につながるよう努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	登下校の見守り、子どもたちへの読み聞かせ、花壇をきれいにさせていただくなど、たくさんのボランティアの方が学校に協力してくださっています。今後も様々な形で学校のことを理解してもらえるように、学校と保護者、地域との連携の推進、また学校からの情報発信の工夫に努め、各種たよりや授業参観・懇談会、学校、学年行事を通して児童の学習や活動の様子を伝えていきます。また、児童一人ひとりの様子を把握し、家庭とのきめ細かな連携を図り、安心して学校生活を送れるようにしていきます。コミュニティ・スクール制度の活用についても検討し、保護者や地域の方に学校をもっと知ってもらい、また協働しながらより豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事への参加意欲が子どもも向上し、保護者も向上している。児童と保護者の感じ方が一致していることはとても良いと思う。一方で、子どもの意識は高いが、保護者の認知度が低いものについては、ずれがないように知らせていくことが大切だと思う。 いじめは、学校だけの問題でなく社会的な課題でもある。学校が努力して対応していることを保護者に伝えているが、なかなか理解が進まない。学校のいじめに対する取り組みを小さなことでも発信していくと良いと思う。 縦割り活動は伝統で、みんなで遊ぶことはとてもよい。兄弟が少なくなってきたので違う年齢の友達と遊ぶことができるよい機会になっている。保護者の認知度があまり高くないので、遊びの様子や取組などを伝えていく必要がある。 保護者の「分からない」の回答を減らしていきたい。保護者が学校に来る機会、知る機会を設けることで、認知度は少しずつでも上がっていくことを期待したい。PTA活動をすると、学校に来る機会も増え、先生とのコミュニケーションも取れ、子どもとの会話も増える。また、保護者間でも情報共有ができる。家庭と学校の両方からの関わりを増やしていくことで、「分からない」という回答が減っていくとよいと思う。 学校からの便り等も、デジタル機器で配信していく機会を増やすことで、保護者が学校からの情報を受け取れる機会が増えると思う。児童がタブレット端末を持ち帰る日もあると思うので、その時に学校のページを見てもらうなどの方法もいいのではないかなと思う。 		